

タイヤ・チューブ取扱説明書

交換前にサイズ確認を！

カワムラサイクル

<準備する道具>

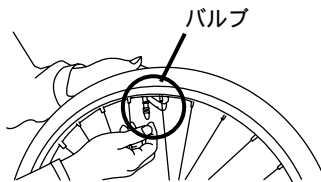
- ・ ポンプ（空気入れ）
- ・ タイヤレバー（2～3本）
- ※ タイヤレバーは市販されています。

作業時には、軍手を着用してください。
バリ等により怪我をする恐れがあります。

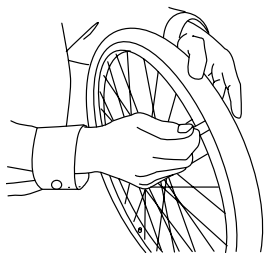


取り外し方

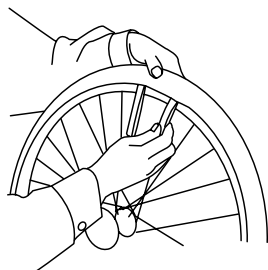
1. バルブのナットなどを全て取り外す。



2. タイヤレバーを差し込み、片側のタイヤビードを車輪からはずし、タイヤレバーをスポークにとめる。

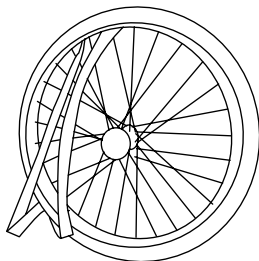


3. 2本目のタイヤレバーを差し込んで、さらにタイヤビードを外し、スポークに止める。1本目のタイヤレバーを抜いて、2本目のタイヤレバーの先に差し込んで・・・ この操作を何度か繰り返す。（タイヤレバーでタイヤ、チューブを傷つけないように注意する）

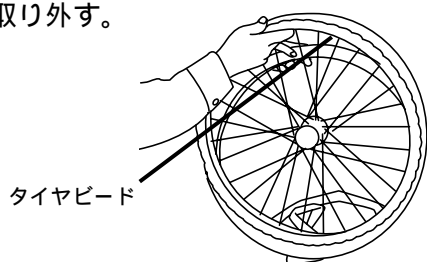


4. ある程度タイヤを外したら、レバーを使わずに、指を差し込んで外す。

5. 片側が全部外れたら、バルブの部分を残してチューブを取り外す。

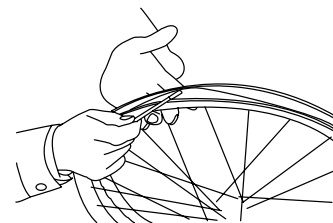


6. 最後に、残った側のタイヤビードをこねるようにして、車輪から取り外す。

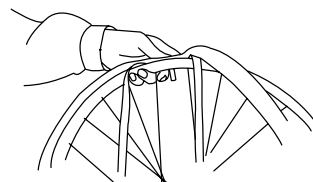


取り付け方

1. フラップをリムに取り付け、フラップとリムの穴を合わせます。

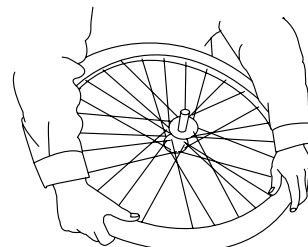


2. (チューブの)バルブをリムの穴に差し込み、少し空気をいれてチューブをリムに沿わします。

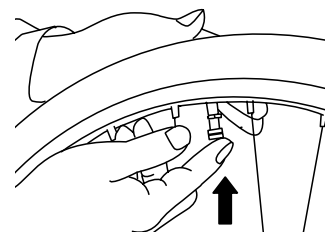
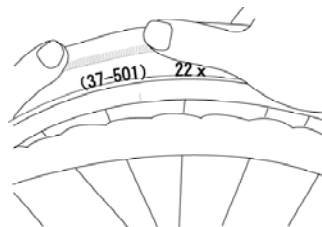


3. チューブをタイヤの中に入れる。

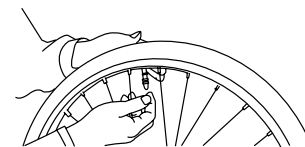
4. 残った側のタイヤビードをバルブの反対側（上下）から順にはめていく。



5. チューブが車輪とタイヤビードの間にはさまれないようにバルブを上下に動かして調整する。



6. バルブのナットなどをはめる。



7. 空気を少し入れ、タイヤが車輪に均一に納まっているかを確認してから、徐々に標準空気圧まで空気を入れてください。

タイヤ・チューブ使用上のご注意

1. タイヤ組付け時の注意

- (1) チューブ・フラップ及びリムはタイヤに適合するサイズを使用してください。
- (2) タイヤのリム組みや取り外しは、ドライバー等の角張ったものを使用するとタイヤ・チューブを傷つけたりするため、必ず専用のタイヤレバーを使用してください。
- (3) フラップはリムのセンターにセットし、スポークの頭を完全にカバーするようにしてください。
- (4) タイヤはリム組み前に内側を点検し、異物等がないことを確認してください。
- (5) リム組み後、タイヤとリムの間にチューブを噛み込んでいないか確認してください。
- (6) タイヤに空気を入れる場合は、徐々に標準空気圧まで入れてください。
- (7) リム組み後は標準空気圧の状態がタイヤが均一にセットされているか、リムとリムラインの間隔により確認してください。
- (8) リム組み時は、油やワックス等は使用しないでください。

2. 走行前点検時の注意

- (1) タイヤの空気圧はタイヤに表示された標準空気圧に充填してください。
 - ※ 仏式及び米式バルブを使用しているタイヤは、タイヤゲージで測定してください。
 - ※ 英式バルブを使用しているタイヤはタイヤゲージで測定できませんので、目安として、タイヤを手で押してもやや硬い程度（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください。
- (2) タイヤに釘やガラス片、その他の突起物が刺さっていないか、油が付着していないか確認してください。異物を発見したときは全て取り除いてください。

3. 走行時の注意

- (1) 段差や突起物への乗り上げは、パンクの発生やタイヤを傷つける恐れがありますので避けてください。
- (2) 急ブレーキは偏磨耗につながりますので、非常時以外は避けてください。
- (3) 積雪路及び凍結路での走行は事故につながりますので避けてください。
- (4) パンクした場合は事故や転倒の原因になりますので乗車は避けてください。

4. 使用限度又は交換時の注意

次のような状態になったタイヤ・チューブは事故の原因につながる恐れがありますので、使用しないでください。

- (1) タイヤ
 - ・ 接地部の全周、全幅にわたってパターンの溝の深さが一部でもなくなったもの。
 - ・ パターンの溝の深さがあっても、極端な偏磨耗、段付き磨耗等異常な磨耗状態があるもの。
 - ・ 布層に達する外傷及び亀裂の発生したもの。糸切れ、剥離及びビード部に損傷を起こしているもの。
- (2) チューブ
 - ・ 傷、割れ、しわ等のあるもの。
 - ・ バルブに変形、亀裂、サビのあるもの。

5. 保管時の注意

- (1) 直射日光を避け、紙、軟質プラスチック等で包装してください。
- (2) 雨又は水のかかる所を避けてください。
- (3) ストープ、その他の熱源に接近させないようにしてください。
- (4) 油類の多いところに接近させないようにしてください。
- (5) 電気火花の出る装置等、オゾンの発生しやすい所は避けてください。
- (6) 亀裂の原因になりますので、タイヤにシリコン系のワックス等を塗らないでください。

6. タイヤサイズの見方

(1) インチ表示サイズ

<分数表示>

(例) 26 X 1-3/8

└───┬───┘
└───┬───┘
タイヤ幅の呼び(インチ)
タイヤ外径の呼び(インチ)

<小数表示>

(例) 26 X 2.125

└───┬───┘
└───┬───┘
タイヤ幅の呼び(インチ)
タイヤ外径の呼び(インチ)

(2) フランスミリ表示サイズ

(例) 700 X 25 C

└───┬───┘
└───┬───┘
└───┬───┘
対応リム記号
タイヤ幅の呼び(mm)
タイヤ外径の呼び(mm)

(3) ISO ミリ表示サイズ

(例) 37 - 630

└───┬───┘
└───┬───┘
リム径の呼び(mm)
タイヤ幅の呼び(mm)